

会長就任にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

会長 鳥海智絵 CMA



会長就任にあたり一言ご挨拶いたします。

私は、1989年に野村證券に入社以来、トレーディングやインベストメント・バンキングなどの業務を経験し、また経営者として信託銀行、リテールビジネスなど多様な立場から金融市場に向き合ってきました。

直近の5年間はリサーチ機能を統括した組織の立ち上げと運営にも携わっています。証券アナリストとしての実務経験はありませんが、市場を支える一人として、また企業経営の当事者としての立場から、金融・投資のプロフェッショナルとしてのCMAに課された使命の重みを強く認識しております。

現在、私たちは資本市場の構造が大きく変わる過渡期に立っています。人口動態の変化、気候変動、加速するテクノロジーの進化、そして地政学的な緊張の再浮上。こうした環境下では、単に企業の収益や価値を評価するだけでなく、経済全体や社会構造に目を配ることがこれまで以上に求められています。

かつて、CMAの主な役割は、企業の収益予測やバリュエーションに重きが置かれていました。1990年代には、情報へのアクセスが限定的であったこともあり、「企業と投資家をつなぐ客観的な情報の仲介者」が強く意識されていたように思います。しかし現在では、情報は即時に広く流通し、AIの技術によって財務モデルの自動生成が進むなど、分析の

環境は大きく変化しています。

では、CMAの役割は小さくなってしまったのでしょうか。私はそうは思いません。企業経営であれ、政策運営であれ、いずれも人間の判断によって行われます。つまり、AIには読みきれない「意図」や「選択」が、あらゆる判断の背後に存在します。さらに、企業個別の動きは、金利・為替・物価・政策・地政学など、マクロの文脈なしには理解できません。

CMAは、定量的な分析を基礎としつつも、それを社会の変化や人間の行動と結びつけて読み解き、自分の言葉で伝える役割を担っています。この意味で、AIの進展によってデータ処理が高度化すればするほど、人間にしかできない判断力や解釈力の価値は高まると信じています。

また、市場参加者の持つ時間軸には短期から長期まで、さまざまなものがあります。短期的なリターンを追求する投資家も、流動性や価格発見機能を提供し、健全な市場を支える重要な存在です。私たちは短期と長期を対立的にとらえるのではなく、それぞれの視点をつなぎ、企業や経済の持続的な価値創造にどう貢献できるかを問う必要があります。その橋渡し役として、CMAの役割は極めて重要です。

さらに近年、政府は「資産運用立国」や「スタートアップ支援」を重要な政策課題として掲げています。成長資金を企業に届けるためには、投資家が正しくリスクを理解し、企業の価値を見極められる仕組みが必要です。その根幹を担うのが、質の高い分析と対話であり、CMAが果たすべき責任はますます大きくなっています。

加えて、金融や経済に関する情報発信を通じて、幅広い層の金融リテラシー向上に寄与することもCMAには期待されています。多様な市場参加者に質の高い情報を提供することで、より強固で持続可能な資本市場の形成に資する、重要な役割と位置付けられます。

現在、CMA資格を持つ方々は、証券会社や運用会社にとどまらず、事業会社や大学など、多様なフィールドで活躍されています。それぞれの立場で経済や企業と向き合う皆さんの知性と倫理観が、持続可能な資本市場の土台を築いていくのだと思います。

「金融・資本市場の健全な発展を促進し、持続可能な社会の実現に貢献する」という協会の理念のもと、これからの運営に力を尽くしてまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

鳥海 智絵（とりうみ ちえ）

野村証券株式会社 代表取締役副社長

2025年8月 当協会会長就任